

第2回 ソーシャルデザインセンターの開設に向けた打ち合わせ結果概要

- 1 日 時 平成31年3月24日（日） 午後2時30分から午後4時40分
- 2 会 場 多摩区役所10階1002会議室
- 3 出席者 18人（内区役所職員3名含む）
- 4 資 料 別添のとおり
- 5 出席者の主な意見

【検討メンバーについて】

- 区民活動交流センターの利用団体は、みんな知らないという。長年活動している団体がこういう取組をスタートしていることを知らないのはおかしい。4月から検討会をスタートするのであればその方たちに周知したうえで、固定のメンバーでやっていかないと、そのたびに新しく入るメンバーに右往左往してしまう。
- これまでと同じ人の意見を聞いていても画期的な動きができないのではないか、という若い人の意見もでていた。時間、場所の問題もあるのでスタートできるものであればスタートして、そのあとでも十分多摩区の活動団体、困っている区民の皆さんなどからの意見はキャッチアップできると思う。
- 民生委員も知らない。行政内での縦割りもある中で、短期間でことを進めていくのはとても難しいと思う。
- あとからきてダメというのは、ソーシャルデザインセンターの趣旨ではなく、今の時代にそぐわない。それをやるのであれば行政が諮問委員会などを作って今まで通り諮問すればよい。
- 地元の学生を取り入れられるような宣伝も重要だと感じている。

【検討の進め方について】

- ある特定の機能を持たせてスタートするというのがやりやすいと思う。
- 幅広く障害者や子どもなど、特にソーシャルデザインセンターを引き渡していく子どもの声を大切に、織り込んでいく必要がある。
- ソーシャルデザインセンターは、すさまじく大きなことをやると思った。専従職員が何人かいるというイメージをした。そうすると小さい組織でスタートして、というのはこの構想には合わないのではないか。
- 住民が全部やり方も含めてやってくださいというのは、欧米などでは当たり前。日本も行政の人たちが気づいて、種火を作らないと燃えていかない。
- この地域の中学生とか高校生に、夏休みにソーシャルデザインセンターをどういう風にするか、ボランティアとして1日でも2日でもいいから、体験させて発表させたら面白いのではないか。
- いろいろな意見が上がっている中で、次のステップとして、話を進めていくためには、どこかのタイミングで、全員で話すのではなく、グルーピングしてやっていかないと7月には終わらないのではないか。

- ワークショップでまちのひろばってどんなところがある、というのをグループごとに出し合ったが、俯瞰図が見えない。いきなりソーシャルデザインセンターとは何か、ということになっているのではないか。
- 小走りしながらスピード上げて、走りながら吸収して、その求心力でゴールに向かっていけばいいと思う。
- きちんと情報を周知する時間があるのであれば4月スタートでもいいと思う。情報も周知していないのに立ち上げますというのはいかがか。
- ゴールに向かっていくこの新しい考え方というのは、行政に向けて検討してください、どうなんですかと言うのではなく、みんなに向かってどうしましょうか、ということではないか。
そうでなければ行政がOK といえ、OK となってしまう。それでは昔の行政ではないかとなってしまう。
- 今後、スピード感を持って進めていくため、他の区・市・県で、同様な取組をしている状況や内容を、企画課で確認していただき、参考にすることはできないか。

- ◎ ソーシャルデザインセンターについて意見を求める目的を持って検討会を置くことについて、参加者の意向を確認した。
- ◎ 平成31年度後半以降にソーシャルデザインセンターの試行開設を目指す。そのため、取組の広報を行いつつも4月に検討をスタートし、7月上旬を目処にソーシャルデザインセンター案について、中間報告をまとめるため、月2回程度の検討会を実施する。7月下旬には、例えばフォーラムや、パブリックコメントやこれに準じた意見募集などを行い、いただいた意見を反映する形で8月以降に成案の作成に向けて検討を続けていく。

―次回以降の打ち合わせの日時等について―

- 今後は、毎月第2金曜日の夜、19時から2時間。第4日曜日の日中、午後2時から2時間。原則として打ち合わせの開催日としたい。ただし、4月は、ゴールデンウィークに入っているため、1週早め4月21日の日曜日午後2時からとしたい。
⇒ 次回は、4月12日（金）午後7時からとして、周知を行う。